



THE Y'S MEN'S CLUB

金沢犀川ワイズメンズクラブ 2018年6月第一例会のご案内

お気軽にご参加ください

<http://www.ys-chubu.jp/saigaways/index.html>

日時 / 2018年6月14日(木) 19:00~21:00

場所 / ホテル金沢 (JR 金沢駅兼六園口, 金沢市堀川新町1番1号 TEL:076-223-1111)

<http://www.hotelkanazawa.co.jp/>

会費 / 3,500円 (夕食代)

卓話 / 「ナホトカ号重油流出事故から21年—海洋環境の現状—」

平口 哲夫 氏 (金沢犀川ワイズメンズクラブ 会員)

卓話予稿 / 2018年3月4日(日)13:30~16:00、石川県立自然史資料館 2F コミュニケーションホールにて、NPO 法人 石川県自然史センター主催 第29回公開シンポジウム「ナホトカから21年—海洋環境の今は—」が開催された。私は、このシンポジウムにおけるパネディスカッションの座長を担当し、その記録をまとめる作業に従事しただけでなく、重油事故流出事故にまつわるいろいろな思い出があり、海洋環境についても大いに関心を寄せているので、このシンポジウムに参加できなかった皆さんにクラブ第一例会の場をお借りしてシンポジウムの概要を紹介することにした。(右掲の写真は、シンポジウム会場に展示された重油付着カスジラ骨を指す平口。)



講師プロフィール / ひらぐち・てつお : 1945年4月敦賀生まれの金沢育ち。1974年3月東北大学文学研究科博士課程単位取得満期退学、同年4月金沢医科大学教養部講師に就任、2011年3月同大学一般教育機構特任教授を定年退職、同年4月同大学名誉教授。環境・民族考古学専攻。主要著書：『考古科学的研究法から見た木の文化・骨の文化』(カバプロ、2003、共著)、『縄文文化の考古学4人と動物との関わりあい』(同成社、2010、共著)。日本ホトoger(鯨類学)研究会顧問、日本考古学協会会員、石川考古学研究会顧問、石川県埋蔵文化財センター評議員、石川県自然史センター理事、世界連邦運動協会執行理事・石川県連合会理事長、金沢YMCA理事、日本基督教団若草教会会員。

日本海ナホトカ号重油流出事故が勃発した1997年1月2日の8年前、1989年3月24日にアラスカでエクソンバルディーズ号原油流出事故が起きた。私は、同年8月2~6日にシトルで開催された環太平洋先史学会議で研究発表したのを機に、アスカ経由で空路、アラスカのコディアク島に渡って貝塚の発掘調査を見学した際、原油流出事故後の対策に追われる島の状況を垣間見た。一方、ナホトカ号重油流出事故が起きた日の11日前、1996年12月21日に石川県門前黒島の海岸に漂着したカスジラは、日本海ホトoger研究グループ(現・日本ホトoger研究会の前身、当時の代表は平口)の会員らが全身骨格標本にしようとしたが、夜中に海が荒れて遺体は波に流されてしまった。その後、海岸に打ち上がる該当鯨骨を収集する活動が続くうちに、ナホトカ号重油流出事故が起きた結果、重油流出事故後に収集された該当鯨骨に重油付着の痕跡を残すことになった。

参加申込・問い合わせ先 / 申込は6月11日(月)までに北 肇夫 会長 : TEL/FAX 076-245-2386、澤瀬 諭 会計 : TEL/FAX 076-276-7822、上記個人のアドレスをご存知の方はEメールでの申し込みも可。Koshomachiruka と@と yahoo.co.jp の組合せアドレス(広報委員長 平口哲夫)宛でも受け付けます。